



赤い羽根共同募金  
地域の福祉、みんなで参加  
**赤い羽根共同募金**

10月1日～翌年3月31日まで実施しています。

※翌年1月1日から3月31日までは、テーマ募金期間

みなさまのご協力をお願いいたします。



徳島県共同募金会



とくしま福祉広報

208号

October 2021

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

〒770-0943 徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター内  
tel: 088-654-4461 fax: 088-654-9250  
e-mail: info@e-fukushi.jp https://fukushi-tokushima.or.jp/

ボランティア・NPOの情報誌



57号

Oct. 2021

とくしま県民活動プラザ

〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目14番地  
沖洲マリナーミナルビル1F  
tel: 088-664-8211 fax: 088-664-5345  
e-mail: info@plaza-tokushima.com  
http://www.plaza-tokushima.com  
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日、年末年始)



マスコットキャラクター プラザ

ひと57号 oct.2021

CONTENTS

特集 NPO法人 子育て支援ネットワークとくしま  
困ったママにさせない 居場所づくりを…

ひと 女性グループ・すいーぷ  
山橋 潔子さん  
～自分の力を信じて歩けるように～

シリーズ この人から  
NPO法人徳島共生塾一歩会 谷口 右也さん  
中山間地農家の「ごまめの歯ざりしり」

事業報告  
「ゆめバンクとくしま」寄付による助成事業報告

ハートリレー  
No.57 金子さんから川添さんへ

## テーマ募金を通じた 生活用品貸与(給付)事業の取り組み

本会では、生活に困窮する方々に対し、将来の社会的・経済的自立に向けて必要とする物品を貸与する“生活用品貸与(給付)事業”に取り組んでいます。

この事業は、徳島県共同募金会の協力を得て実施するテーマ募金を通して、県内の様々な方々からお預かりした善意の募金を財源に、就職活動に必要な洋服の購入代や生活の立て直しに必要な家電など、自立相談支援機関からの支援に基づいて、困窮する相談者が目指す自立した生活に向け物品を購入する費用の一部にあてられています。

本年1月から3月に広く募金協力を呼びかけたところ、小学生や中学生、大学生、地域の様々な商工関係者、民生委員児童委員、福祉関係者、行政機関、また地域の地縁組織などの一般住民など、これまでを大幅に上回る皆様から善意の御協力をいただきました。

小学生と中学生を含む世帯全員で募金されたAさん一家では、「コロナ禍、誰もが苦しい生活を余儀なくされているなか、子ども達の周りにも家族が失業したお家や、日頃行っていたお店が閉

じぶんの町をよくするしくみ(共同募金活用事業)  
とくしま“あい・あい”プロジェクト

つかいみちを選べる赤い羽根募金

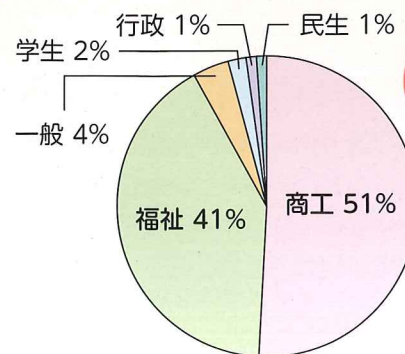
あなたの一歩を応援したい!

就職活動  
したいけど……

新生活を  
始めたいけど……

生活用品貸与(給付)事業  
応募期間  
令和3年1月1日～3月31日

とくしま・くらしサポートセンター  
〒770-0943 徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター内  
TEL.088-654-8386 FAX.088-654-9250



まっている状況を知りました。“自分達が社会のためにできることは何だろう”と家族で話しあい、“ひとりでも多くの方が再出発できるように”との子ども達の思いもあって、家族全員で募金しました。」とお声をいただきました。

また、毎年、地域の夏祭りを開催していた自治会の役員からは、「例年通りに開催することは難しいけれど、少しでも地域の皆が夏祭り気分を味わうことができるように、自治会に協力してくれる企業名や個人名の入った提灯を灯すこととしました。自治会で話し合っ、集めた会費の一部を募金して、是非役立ててもらおうということになりました。」と、地域全体でこの取り組みに協賛いただきました。

皆様からのたくさんの善意を賜り、本当にありがとうございます。

## NPO法人

# 子育て支援ネットワークとくしま

子育て支援施設の管理運営や  
移動子育て広場の開催、  
子育てに関する  
情報提供など、  
時代のニーズに合わせた  
育児支援を行っています。





# 困ったママにさせない 居場所づくりを…

NPO法人子育て支援ネットワークとくしまは、前身の「子育てネットワークくすのき」の活動開始から数えて7月で28周年を迎えました。主な活動は、県内の子育て支援施設の運営や子育てサークルの支援、災害時にも親子で駆け込める施設や個人のネットワークづくりを行っています。

活動を始めたきっかけは、私が奈良県から徳島県に越してきて、乳幼児を育てる母親の相談先や遊び場の情報がなく困っていたときに、大阪の赤ちゃん向けのサークル活動をテレビで見たことでした。「自分たちでもやってみよう」とすぐに子育てサークルを結成。今でこそ行政も子育て支援を行っていますが、そのころは、働いていない母親たち(在宅育児)の支援がなく、集まる場所を探すのもひと苦労でした。サークル活動を続けていくうちに、子育てで悩んでいる母親の状況を何とかしたいとの思いから「子育てネットワークくすのき」を結成。地域に密着した子育て情報誌「Enjoy! ママ」の発行や、気軽に子育ての悩み相談ができる場所を開設したところ、予想以上に反響や相談があり、大きな手ごたえを感じました。



理事長 **まつざき みほこ**  
**松崎 美穂子**さん

その事から、協力してきてくれた仲間たちとともに2002年にNPO法人化しました。

0歳から1歳の子育てする母親は社会との接点がなく、特に県外から越してきた母親はいろいろな面でどうしたらよいかわからない。そこで孤立しないように母親同士が交流することが大切です。いつでも相談できる場所、集まれる場所をつくりたいとの結成当初からの思いを実現したのが、活動拠点でもある「子育てほっとスペースすきっぷ」です。徳島に来てサークル活動を始めて31年。共に活動し、支えてくれる仲間がいたからこそ、続けることができ、思いを実現できたのだと思います。今後も活動の場があるかぎり、続けていきたいと思っています。

## NPO法人 子育て支援ネットワークとくしま (Kネットとくしま)

電話：088-678-5200 メール：info@knet-tokushima.jp URL：https://knet-tokushima.jp/



もり  
森 エミコさん

友達の紹介で、子育て支援ネットワークとくしまの前身「くすのき」が主催していた「リフレッシュママ講座」を受講していました。2003年9月「すきっぷ」がオープンする際に、「スタッフとして一緒に働いてみませんか」とお声掛けいただいたのが出発点です。当時、働きはじめたとはいえ、子どもはまだ幼稚園児。働きながら子育てをするという環境で、すきっぷに来ているママと一緒に学ぶことの方が多かったのですが、子育てが終わった今、新米ママを冷静な目で見られるようになり、それぞれの「いいところ」を探せるようになりました。若い世代のママ・パパとの関わりは、新鮮でとても楽しいです。

また、おばあちゃん・おじいちゃんが、お孫さんを連れて利用するだけでなく、様子を見に寄ってくれたり、ボランティアで掃除のお手伝いをしてくれたり…たくさんの人との関わりや、支えていただいていることが励みになり感謝しています。メインは利用者であり、私はパイプ役として支援やアドバイスをする役目。現代のママの子育て観を理解しつつ、柔軟に寄り添い、全てにおいて自分自身スキルアップして楽しんでいきたいです。

## 子育てほっとスペース すきっぷ

すきっぷは乳幼児の親子のためのふれあい広場。ママたちが笑顔で子育てできるようサポートしています。子育てに関する情報の提供やイベントを開催しています。

- ★開館時間 10:00~16:00
  - ★休館日 毎週水曜/第2・第4土曜/第1・第3日曜/祝日/年末年始
  - ★利用料 無料
- (現在、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、事前予約制となっています。)

### ==== イベントの一例 ====

- 助産師さんの「ベビーDay」「マタニティDay」
- 保育士さんの「子育て相談日」
- 転勤や県外からお嫁に来たママのための「転勤族ママの日」
- 外国人ママのための「外国人ママ・パパ応援の日」
- パパのための「パパ講座」 ●うたの日 ●お誕生会



利用者とスタッフが交流している様子

所在地：〒770-0914 徳島市籠屋町1丁目14番地 電話：088-626-5454

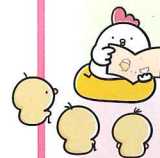
## 団体設立の経緯 (年表)

松崎さん25歳の時、奈良から徳島へ

1990年6月  
子育てサークル  
おたまじゃくしくらぶ発足



1991年5月  
自然の中でいきいき子育て  
めいちゃんくらぶ発足



1993年7月  
徳島子育てネットワーク  
くすのき 結成

2002年3月  
NPO法人  
子育て支援ネットワークとくしまを設立



2003年9月1日  
すきっぷオープン

## 主な活動内容



自然の中でいきいき子育てをモットーに  
パパも巻き込み農園で活動 (めいちゃんくらぶ)

徳島いきいき子育て情報誌「Enjoy! ママ」の発行  
行政情報・遊び場・お店・サークル紹介 (くすのき)

すきっぷの前身  
くつろげる空間「子育てほっとroom」を開設  
親子の交流・子育て相談・フリマブース (くすのき)

徳島市かごや町商店街で「子ども広場」を  
1か月限定で運営  
(子育て支援ネットワークとくしま)

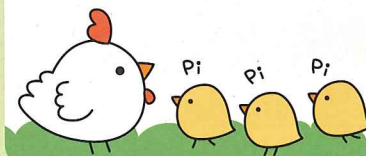
## その他の活動内容

赤ちゃん授業と  
家庭訪問型子育て支援事業  
「ホームスタートとくしま」  
(2012年9月~)

とくしま子育て  
防災ネットワークの取り組み  
(2013年4月~)

すぎの子木育広場  
すきっぷの森もっくオープン  
(2015年10月~)

もっくの活動拠点を  
あすたむらんど徳島内  
「木のおもちゃ美術館」へ  
(2021年10月~)



まきの よねこ  
榎野 米子さん

2003年当時、すきっぷに保育士が必要だった松崎さんから、勤労者福祉ネットワークの講習会で、声をかけていただきました。松崎さんと会って話をしているうちに、その人柄に感銘を受け、活動の目的にも共感し、喜んでお手伝いすることになりました。すきっぷや、藍住町の「ふれあい子育てサロン ぽっかぽか」や同町の大型商業施設で絵本の読み聞かせと手遊びを担当しています。活動ができる間は、できる範囲で一生懸命にやっていきたいと考えています。何と言っても嬉しいことは、親子で遊びに来てくれる場に立ち会えることです。ふれあいはとても大事で、たくさんふれあうことでお母さんたちの気持ちや様々な事柄を感じ取れるように心がけています。また、ママやパパ、おばあちゃんやおじいちゃんなど利用者さん同士で話してもらい、悩みを共有して、笑顔で帰ってほしい。そのサポートをしていきたいと思っています。

## ふれあい子育てサロン ぽっかぽか

就学前のお子さんと、子育て中の保護者が一緒に集まって、お話や情報交換をする場です。

★日時 毎月第1・第3日曜日  
10:00~13:30

★場所 藍住町勤労女性センター1階 和室 榎野さんと一緒に手遊びを楽しむ親子



## 徳島県すぎの子木育広場「すきっぷの森もっく」

徳島県「木育交流推進事業」により「木育」「県産材製品の普及」「子育て支援」「多世代交流」の場になる多機能型拠点として設置され、木とふれあい、木に学び、木でつながる木育広場です。

オープンから6年間親しまれてきましたが、10月24日からあすたむらんど徳島内「木のおもちゃ美術館」に活動の場を移し、引き続き木育を発信していくことになっています。



「もっく」



「木のおもちゃ美術館」

(取材：北岡・佐藤・橋本)





# 自分の力を信じて歩けるように

今回は、「女性グループ・すいーぷ」の代表、山橋 潔子さんにお話を伺いました。

結婚前は会社勤めをされていた山橋さん。出産を機に退職し、子育てに専念されていたそうですが、その間は社会との繋がりが希薄になり、とても孤独を感じていたそうです。やがて、PTA活動に参加するようになり、子どもや学校のことなど、様々な問題があることを痛感されたと同時に、自身が経験した子育て中の孤独感は、女性全体の問題だと考えるようになったとおっしゃいます。

そこで、当時、カウンセラー養成講座を受講した仲間4人で、働く女性のための電話相談を始められました。すると、多数の方々から相談が寄せられ、DVをはじめとする女性に関わる問題の多さ、深刻さに改めて気付かされたそうです。

現在の主な活動は、年間30回程実施している中・高・大学生等へのデートDVの予防教育とシングルマザーや子どもたちが毎月1回集まる居場所づくり事業「間借りカフェたんぽぽ」です。その他にもこころのケア講座や付き添い支援、親子イベントの開催など、多方面から、女性や子どもに対して幅広くサポートされています。

ただ、長年活動を続けていると、深刻な話を聞いて自分自身の心が重くなってしまいうこともあるそうです。そうならないよう、常に、自分と他者との境界線を意識して活動するとともに、楽しいこと、自分が回復できる心地よい場所を持ち、そして、前のめりになりすぎず、自分ができる範囲でのサポートをしていくのだそうです。

今の若いママたちを見ていると、「もっと肩の力を抜いたらいいのに」と思うことがよくあるそうです。感情をほぐし、自分の持っている力に気付けるように、そして何より、これから先、自分の足で歩いて行けるように



女性グループ・すいーぷ

代表 **山橋 潔子** さん

TEL・FAX：088-631-5731  
携帯電話：080-2995-1639  
メール：w.sweep.info@gmail.com  
HP：https://w-sweep.info

支援を行うのだとおっしゃいます。

支援していた女性が、大きくなった子どもを連れて来て、親子共に成長した姿を見ることができたときは本当に嬉しいと、目を細められました。

今後は、若年層への支援に力を入れ、デートDV予防教育を小学校のプログラムでやってみたいそうです。お互いに尊重する関係を小さなうちから知って欲しい、そういった情報を教育の場に届けたいとおっしゃっていました。

「基本楽しいことしかしない。」といたずらっぽく笑う山橋さんが繰り返す『自分を大事にしないと、人を大事にはできない。』という言葉。山橋さんの凛とした佇まいの向こうに、揺るぎない信念を感じた瞬間でした。

(取材：丸山、大津)



「たんぽぽ」の活動の様子

シリーズ この人から

## 中山間地農家の「ごまめの歯ぎしり」

NPO法人徳島共生塾一步会 理事長 谷口 右也

### 久々の海で、教えてもらったこと



中山間地の課題を解決しようとスタートした本年度。見えてきたのは、分厚くも越えがたい壁の数々。「中古家屋」「打つ手なしの獣害」。もっとも深刻なのが、住んでいる人たちの気持ち。「農業は、自分の代で終わり。子供には好きな道を！」との、耳障りのいいあきらめ。

なんてことを考えているうちに、当会の本年度事業もスタート。「海岸生物調査」という、磯の貝や海藻などを観察し、「瀬戸内海」の水質の健全度を住民が調べる事業。講師のお願いに下見、参加者募集、安全確保など超多忙。

そんな時、子ども食堂を運営する「NPO法人クレール」の方から、「バスの乗降が、困難な方が参加したいが、大丈夫ですか?」。何回か下見をしてる私、あの距離、アップダウン、長い砂浜・・・。「大丈夫かな?」

が、口から出たのは、「みんなに手伝わってもらおうよ!」。当日は、スタッフや参加者の何気ないサポートで無事に磯に到着、楽しんでもらいました。「普通に助け合う普通の人たち」。悩める私は、参加者と海に、大きな気持ちで包んでもらい、元気になりました。



海岸生物調査の様子

## 「ゆめバンクとくしま」寄付による助成事業報告

### 「ゆめバンクとくしま」助成金授与式



助成金授与の様子



助成団体の皆さん

令和3年度「ゆめバンクとくしま」助成金授与式が7月25日に執り行われました。助成金授与に続いて、9団体から団体の紹介や活動内容について発表がありました。様々な社会貢献活動のために助成金を有効活用してくださいね。

2022年度生(2022年4月1日学習開始)10月1日より受付開始! 教育訓練給付制度対象講座 ※「社会福祉学科 一般養成課程(1年コース)」は対象外です。

### 社会福祉学科 通信課程

一般養成課程(1年6ヶ月コース) 短期養成課程(9ヶ月コース)

### ～オンライン進学説明会のご案内～

2021年 11月28日(日) 10:00  
12月12日(日) 13:00

社会福祉士や精神保健福祉士に興味があり通信制で資格取得を考えている方へ、左記日程にてWebex(ビデオ会議システム)によるオンライン進学説明会を行います。事前予約は必要ありません。※実習担当者は、出席前に必ず進学相談会にご参加ください。※詳しい参加方法およびWebexの操作方法についてはHPをごらんください。



詳しくはこちらからHPをごらんください。

### 精神保健福祉学科 通信課程

一般養成課程(1年7ヶ月コース) 短期養成課程(9ヶ月コース)

2022年 1月23日(日) 10:00  
2月20日(日) 13:00  
3月6日(日)

好きを極めてプロになる 指定校バディシエ福祉カレッジ 〒760-0021 香川県高松市西の丸町14-10 TEL.087-823-5566



# ハートリレー

No.57 金子さんから川添さんへ



徳島市地域包括支援センター 保健師  
かわぞえ けいこ  
川添 圭子さん

## 「行動力で」地域を強くする

川添さんが講師を務める認知症サポーター養成講座で初めてお会いし、早5年。今も、ポップで前向きなキャラクターに魅了され続けている。現在、2児の母であり保健師という激務をこなしながら、認知症カフェ(オレンジカフェ)の世話人をされ、「おれんじ新聞」の執筆・発行を担い、また幾度となく認知症サポーター養成講座を開催され、ゴールドキャラバンメイトの称号を持つ。さらに、防災士の資格を活かし、防災啓発活動も行っている。ご本人いわく「認知症と防災しかやってない」とのことだが、その分野に特化した活動と知識と経験が、どれだけ私達医療人や患者・地域に重要であるかはいうまでもない。各地に幅広いネットワークをもっているのも、このバイタリティと使命感の強さに多くの方が惹かれているからであろう。奇遇にも、私も川添さんと同じ分野で活動を行い、協働する立場にある。「同志」として応援するとともに、今後も共に活動の幅を広げ、地域に還元できるよう尽力していきたい。

かねこ あやこ  
文・金子亜矢子



## とくしま県民活動プラザ

●プラザ開館時間 開館時間：10:00～18:00  
【研修室利用時間】 火曜日～土曜日：10:00～21:00  
日・祝日：10:00～18:00  
休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)、  
年末年始(12/29～翌1/3)



### ●公共交通機関をご利用の場合●

JR徳島駅前、徳島市営バスターミナル6番のりばより、  
・「中央市場」行きに乗車 終点「沖洲マリンターミナル」下車すぐ  
・「沖洲・南海フェリー前(マリニピア経由)」行きに乗車  
「マリンターミナル前」下車すぐ

## NPO・ボランティア団体 ポスター展示会 巡回展示



10月6日(水)～13日(水) 吉野川市文化研修センター  
10月22日(金)～31日(日) 美馬市立図書館  
11月9日(火)～19日(金) 阿南ひまわり会館

※牟岐町・鳴門市にて開催予定  
※写真は、8月に開催した徳島市シビックセンターの様子

**編集後記** 朝晩めっきり涼しくなり、秋の気配を感じるようになりました。食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋。みなさまはどの秋を堪能されていますか。季節の変わり目である秋に体調を崩される方もいらっしゃるかと思います。適度に体を動かしたり秋の食材を堪能するなど、コロナや秋バテに負けないよう業務に励みます。どうぞよろしくお祈りします。(ACHI)

## 『子どもの居場所』づくり ～子どもの育みを地域で見守るVol.3～

### 活動団体紹介 .....



### 上八万児童館

乳幼児から18歳まで、長期にわたって子どもの成長に寄り添う居場所です。

※詳しくは、下記サイトをご覧ください。



「とくしま子どもの居場所づくり応援サイト」

<https://t-ibasyo.com/>



### 料理学習つむぎ

子ども食堂が取り組む、料理体験を通じた学習支援をしています。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会  
地域福祉課 子どもの居場所づくり推進事業担当  
TEL. 080-8633-1657  
FAX. 088-654-9250  
メール [ibasyo@tokushakyo.jp](mailto:ibasyo@tokushakyo.jp)

## 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和3年度

# ボランティア活動保険

全国200万人加入!!

### 保険金額・年間保険料(1名あたり)

保険金の種類	プラン	
	基本プラン	天災・地震補償プラン
死亡保険金	1,040万円	
後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
入院保険金日額	6,500円	
手術保険金	65,000円	
外来の手術	32,500円	
通院保険金日額	4,000円	
地震・噴火・津波による死傷	X	O
賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)	
年間保険料	350円	500円

＜基本プランに加入される方へ＞  
基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。  
◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。  
※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険 検索

商品パンフレットはコチラ  
(ふくしの保険ホームページ)



## ボランティア行事用保険 送迎サービス補償 福祉サービス総合補償

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険) (傷害保険) (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
(引受兼事務) 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
TEL: 03(3349)5137  
受付時間: 平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763  
受付時間: 平日の9:30～17:30(12/29～1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

CLEA NUP アドプト・プログラム吉野川  
吉野川を私たちの手でもっときれいに!!

参加団体募集!!  
HPはこちらから

吉野川交流推進会議 徳島県庁 未来創生政策課内  
TEL: 088-621-2743 FAX: 088-621-2758

一生、いい歯と付き合うために。  
「成人歯科健診を推進しています」

一般社団法人 徳島県歯科医師会  
会長 松本 侯  
徳島市北田宮 1-8-65 電話 088-631-3977

ホームページ



## 人々の生活と権利を護る

生活で困ったことが起きたとき、社会福祉制度や人々の助けを借りて問題の解決を目指します。このとき、自分にどんな権利があり、その権利を使うために、どのように手続きをすればよいのかを理解する能力、法律や関連する制度の存在を知り、その知識を使いこなすことが出来る力を「法的識字能力(リーガルリテラシー)」といいます。

現代社会のしくみは、多様で複雑です。その中で福祉に関する自分の権利を理解し、必要な手続きを適切にとれる人は多くないと思います。さらに、生活上の問題を抱えている人の中には、自分が困難な立場に置かれていることに気が付かない人や様々な事情で自分からSOSを発信できない人がいます。

社会的支援のしくみを上手く使えない人に代わり、その権利行使を支え、制度や支援につなげる。それが、権利擁護です。権利擁護は、欧米ではアドボカシー(代弁)ともいわれます。社会福祉ニーズを持つ人の意思や判断に基づき、その権利の主張を支援・代弁していくことで、人々の生活を護る。これは社会福祉実践の基本ともいえる活動の1つです。



徳島大学大学院  
医歯薬学研究部  
口腔保健福祉学分野  
講師

柳沢 志津子  
やなぎさわ しずこ



＜三好市で行われた認知症徘徊搜索訓練の様子＞



## ひろがる未来・つなぐ活動

### 新米の寄贈を通して農業の大切さを伝えたい

全国農業協同組合連合会徳島県本部  
JA徳島農政協議会



今年で37回目となる全国農業協同組合連合会徳島県本部とJA徳島農政協議会による県内全児童養護施設への新米寄贈は、8月の長雨の影響による収穫の遅れと新型コロナウイルス感染症の拡大防止により贈呈式が中止となったため、9月2日にJA全農とくしま物流センター前にて受け渡しのみが実施されました。施設を代表して加茂愛育園の片山園長より、「皆さまからの温かい気持ちがたくさん詰まったお米を、おいしく大切に味わいたい」と感謝の言葉がおくられました。

この贈呈を実施するにあたり、JA全農とくしまの長江郁哉県本部長より、「徳島県産米は、肥沃な土地と清流、温度差のある気候で作られることから、県南部で栽培されるコシヒカリは早期米として、夏の8月初旬には新米の収穫・出荷が始まります。新米をいち早く児童養護施設に届け、農業の大切さや大変さを学んでいただき、徳島県内生産者の愛情をいっぱい注いだお米のおいしさを十分に味わってもらいたい。そして立派な社会人になっていただくことが県下JAグループの想いです。今後もこの活動を継続していきたい」と力強く語っていただきました。

JA全農とくしまでは現在、子ども食堂への県産野菜の寄贈をはじめ、食育活動として小・中・高校生対象の料理レシピコンテスト等に取り組んでいます。今年4月にはYouTubeチャンネルも開設し、野菜の栽培や『すだち大使』のPR動画を発信しています。「まだまだ手作り感いっぱいです」と微笑む長江県本部長や徳島県JAグループの挑戦と社会貢献活動はこれからも広がります。



私はもともと小学校教員を指しておりました。それがなかなか採用試験に受からず就職に悩んでいたところに、大学の先生から児童相談所の非常勤職員を紹介され、採用していただくことになりました。児童相談所では心理判定員として、子どもさんの発達の相談や障害のある子どもさんの相談、療育手帳の判定などを行ってまいりました。今から思えば恥ずかしいことですが、本当に何も知らないまま就職したにもかかわらず、上司の方や先輩方から丁寧なご指導いただき、そのことが今の私の大切な基礎になっていると思います。そこから転職し、子ども家庭支援センターひかりに就職しました。



相談受付風景

です。対応が可能な限りご相談をお受けするようにしております。前職では、私の役割はある程度決まっていたので、それも戸惑いのひとつでした。しかしひかりでの仕事を続けていくうちに、地域に根ざした身近な相談室として活動しているひかりにとっては、それもとて大切な役割なのだと考えるようになった。子ども家庭支援センターひかりでは、子どもさんや、家庭・

学校生活など子どもさんを取り巻くことのご相談をお受けしています。小さい子どもさんでは、言葉の遅れやなかなかお友達と遊べない、集団での活動がしにくいなどのご相談が多いです。また少し大きくなってくると、学校に行きたがらない、勉強がよくわからないなどのご相談も増えてきます。また、子どもが言うことを聞かない、親に対してひどい言葉や時には暴力もあるなど、親御さんが子どもさんとの関わりに悩んでご相談されることもあります。子育ては、本当に大変です。ひとつのことが解決したと思ったら、次の日にはまた別の心配事が出てきます。ただ、大変なのは親御さんだけではありません。お友達となかなか遊べなかつたり、勉強がわからなかつたりして一番困っているのは子どもさん自身です。そのことをお伝えしながら、ご家族がどのようなバックアップをしていけるかを一緒に考えていきたいと思います。しかしそうは言っても親御さんもストレスは溜まります。なので、

「今日こんなことがあって...」と、しんどい気持ちを吐き出す場としても利用していただけたらと考えております。敷居の低い、相談しやすい相談機関を目指していきたいです。もともと目指していたことは違う仕事をしていましたが、今はこの仕事についてよかったです。この仕事は、私自身を成長させてくれているように思います。悩むことは毎日のようにありますが、それも自分の糧になると思い、今後もがんばっていききたいと思います。



相談室

## ふくしと私



子ども家庭支援センターひかり

相談員 曾根 寿々代

地域とお客さまの「ベストパートナー」へ

阿波銀行  
http://www.awabank.co.jp/

ともに未来へ  
~ to the future with ... ~

徳島大正銀行  
トモニホールディングス



## — 和田福祉基金 寄付金贈呈式 —

令和3年6月29日、本県の社会福祉の発展に寄与したいとの思いを受け、和田様の遺贈金を御寄付いただきました。

いただきました遺贈金は、本会の社会福祉基金のひとつである「和田福祉基金」へ組み入れを行い、本県の社会福祉活動の推進、災害時の支援体制の構築や大規模災害発生時の支援活動等に活用させていただきます。ありがとうございました。



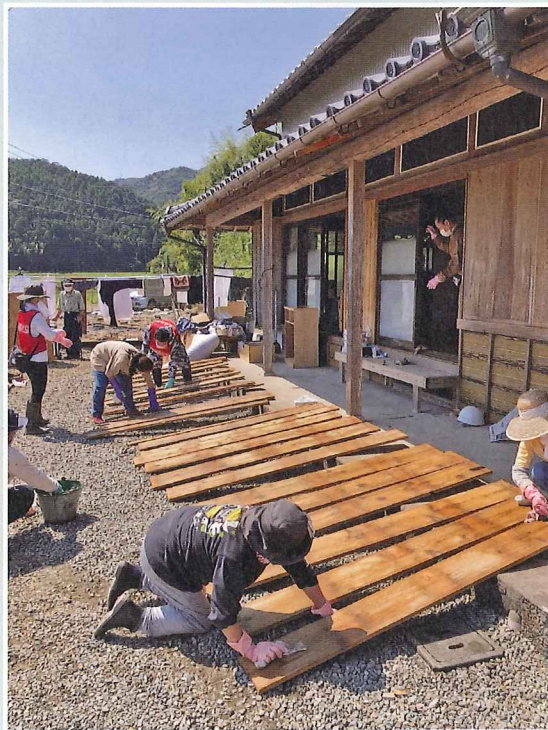
## 令和3年9月8日(水)からの徳島県南部における 顕著な大雨への対応(海陽町社協)

9月8日(水)に発生した、徳島県南部圏域を中心とする線状降水帯による顕著な大雨により、県南部で床上・床下等の浸水被害が発生。海陽町においては、観測史上最大の時間雨量130mmを記録した。

海陽町社協では、地域福祉部門をはじめ、総務、在宅、シルバー人材センターなどの各部署で情報共有を進めるとともに、全体で局内会議を行い、被害状況と今後の方針の統一化を図った。

9月9日(木)、町内の様々な概要が見えてくるに従って、地域の民生委員児童委員と連絡を取り合い、行政職員とともに10班体制で浸水した複数の地区を全戸訪問し、被害状況の確認や暮らしの困りごとを聞き取った。災害ボランティアセンターは設置せず、役場とも連携して地域住民相互のボランティア活動呼びかけた。特に福祉的な関わりが必要な方には、より早く福祉相談を含めた支援をすることとした。

9月10日(金)、住民からの相談と依頼に応じ、各々の個人宅でのボランティア活動を調整したり、町内の社会福祉法人の訪問介護や地域包括支援センターなどとも連携したりして、住民一人ひとりへの個別支援を包括的にコーディネートした。社協では、住民の困りごとの声に対応できるよう、事業・業務を介してアウトリーチ型の聞き取りを継続して行っており、役場や地域の社会福祉関連施設・団体、また建築関係の事業者等の協力も得て、引き続き個別の対応に努めている。



ありがとうございます  
預託一覧

●全国農業協同組合連合会徳島県本部様・JA徳島農政協議会様より  
児童養護施設7か所へ新米500kgと飲料の御寄贈



# 徳島県社会福祉法人経営者協議会の BCP策定に向けた取組み

## 現状

多発する災害への対応に備えるため、徳島県社会福祉法人経営者協議会(以下、当会)は会員法人に対し、BCP(事業継続計画)の策定状況についてのアンケート調査を令和2年1月に行いました。その結果、策定済みの会員法人は94法人中20法人(21%)であったことから、さらなる策定率の向上に向け、徳島大学環境防災研究センターの協力により、オンラインを併用した課題提出型の研修会を開催しました。現在は新たに31法人が策定に至り、BCPの策定率は全体で54%となっています。

## 業務継続計画(BCP)の必要性

### 大規模災害時の課題

- 1) 災害対応+通常業務の継続
- 2) サービス資源の絶対的不足  
職員・施設の被災、ライフライン、厨房・トイレ・入浴、通信・情報システムなど介護サービスを行うための必要資源が不足
- 3) 在宅利用者の受入れ
- 4) 命を預かる業務としての重要性

周到な事前準備

BCP

## 策定されたBCPから見えてきた課題

- ・参加した会員法人から「自分たちが作成したBCPが正しく作れているのかわからない」との意見が多く寄せられました。そのため、自法人で確認できるチェックリストを先生方に作成していただき、今年度の研修会から活用する形をとっています。
- ・BCPの取組内容やBCPを動かす取組(訓練等)について、法人間で情報交換を行う必要性が見えてきました。

資料：社会福祉法人におけるBCP(初級)研修会(令和3年8月24日)



## 策定の推進にご協力いただいている先生方

(左から、徳島大学環境防災研究センター 特命教授 中野 晋氏、助教 湯浅 恭史氏、助教 金井 純子氏)

## 今後

当会では、令和3年度は「PDCAサイクルに基づき、各委員会が主体的に動いて事業を行う」との方針により、災害関連のBCPの策定は総務・災害委員会が、新型コロナウイルスに関するBCPの策定については、新型コロナウイルス特別委員会が中心となり取組みを進めています。

BCP策定の推進に向け、徳島大学環境防災研究センターよりアドバイスをいただき、まだBCPの策定に至っていない法人を対象とした『初級研修会』とBCP策定済みの法人に対する『中級研修会』(実際のBCPに基づく訓練と結果の情報交換)の実施をはじめ、BCPの完成度合いをチェックするためのチェックリストの活用方法や新型コロナウイルスへの対応を踏まえたBCPの策定研修会(令和3年10月~11月)を開催予定です。

今後も地域の福祉サービスが継続できる体制の確保に取り組んでまいります。